

博士課程教育リーディングプログラム 平成26年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	名古屋大学	申請大学長名	濱口 道成
申請類型	複合領域型（多文化共生社会）	プログラム責任者名	高橋 雅英
整理番号	S02	プログラムコーディネーター名	東村 博子
プログラム名	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング（豊かな生活を実現し権利を保障する）をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。具体的には、アジアの中で、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食（量的確保と安全）、環境（衛生）、健康（医療、福祉）、社会（脱貧困）、教育（次世代育成）における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。アジアにおける“ウェルビーイング”の実現には、多様な文化への理解と尊重が不可欠である。一方で、多くのアジア諸国で問題となっている高い乳幼児死亡率（日本の約数十倍）などの共通課題は、食や健康、環境、教育、社会システムの各分野における専門的な「知」を結集し、アジアの文化を理解・尊重できる専門家によって解決すべき課題であり、個別の学問領域では解決しえない課題へのグローバルな視点でのアプローチと課題解決を可能とする人材を育成する。

2. プログラムの進捗状況

本プログラムの正規学生の採用は、平成26年度10月からであり、昨年度に引き続き、準備期間として4月から9月まで研究アシスタント54名を採用して、海外実地研修の試行（ベトナム、マレーシア）、および特別講演の試行等の実施により、プログラムの修正・充実などカリキュラムの整備を行った。優秀な学生を募集するために、名古屋大学のリーディング大学院6拠点合同の説明会を札幌、東京、大阪で実施した。5月には正規学生の募集を行い、29名の応募者のうち20名を採用し、10月1日に第1回入講式を実施し、後期のカリキュラムを遂行した。正規学生にはTOEFLiBTの受験を義務づけ、学生の英語力の入講時評価を行った。11月には多文化を理解するための合宿形式の“Cross Cultural Talk”を正規学生20名を含む69名（内外国人26名）の参加者を得て実施し、多様な文化について理解を深めると共に英語での会話・議論の経験を深めた。更に、東南アジアの文化と諸問題を学ぶために、学生を3グループに分け海外実地事前研修（現地語研修2コマを含む）、海外実地研修（ベトナム、インドネシア、フィリピン）を実施した。また今年度は元国連事務次長補 Mr. Mehr Khan Williams 等の国際的な著名人を招聘し、国際シンポジウムに相当する国連デーを開催した。